

# 青少年赤十字 SHIMANE



第 109 号 平成 31 年 3 月 31 日

島根県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社島根県支部

## 青少年赤十字国際交流事業を行いました

日本赤十字社では隔年で「青少年赤十字国際交流事業」を実施しています。今年度はアジア・大洋州の国々と地域から 40 人の青少年赤十字・赤新月メンバーが来日。島根県支部では 11 月 17 日（土）～22 日（木）に、インドネシア赤十字社青少年赤十字メンバー 2 名を迎え、メンバーや奉仕団との交流を深めました。



JRC 部員から習字を教わる様子



弓道部の見学では弓をもつ体験をしました

松江東高校では、英語の授業に参加してグループワークをしたり、JRC 部と習字の体験やインドネシアの防災ボードゲーム、部活動の見学などを行い、同世代との交流を楽しんでいました。



児童による合奏を聴いたり、6 年から学校生活の様子を聴いたり、けん玉・こま回しなどの日本の遊びを体験したりしました。慣れない遊びに最初は苦戦していましたが、子どもたちのアドバイスを受け、2 人ともすぐに上達していました。



子どもたちからけん玉のコツを教わる様子



血液センターの施設見学。普段見慣れないものに 2 人とも興味津々の様子でした。



みずうみ赤十字奉仕団との交流では、一緒に災害時高齢者生活支援講習を受けました。



### インドネシア赤十字社青少年赤十字メンバーより

島根県での 5 日間はとても素晴らしいかったです。インドネシアはとても災害の多い国です。今回、日本での災害対応について学んだことや経験したことを自国へ持ちかえって参考にしたいと思います。また、ホームステイ先でも様々な経験をさせていただき、とても楽しかったです。ありがとうございました。



リフキ（左）とスルタン（右）

## リーダーシップ・トレーニング・センター

トレセンは、青少年赤十字の教育プログラムのひとつで、集団生活をともなう学習活動の場。学校や地域社会のリーダーを養成することを目的に開催する研修です。30年度も多くの児童・生徒さんが参加してくださいました。



ホームルーム(高校)



フィールドワーク



技術研修(点字)



国際理解・親善プログラム



非常食炊き出し



リーダーシップについて講義(小学校)



フィールドワーク

### ★県トレセン（小・中・高合同） [7/27(金)～7/28(土)]

小7名、中37名、高25名、合計69名が参加。台風の影響により、2日目の午後に解散となりましたが、赤十字についての講義、フィールドワーク、技術研修などのプログラムを実施しました。特に「国際理解・親善プログラム」では、カメルーンやエチオピア出身の方々と交流し、各ホームルームごとに工夫を凝らした遊びを考え、活発な交流をしていました。

### ★地区トレセン〔隠岐：1/19(土)、益田：2/2(土)〕

隠岐と益田を会場に開催。赤十字について、フィールドワーク、非常食炊き出し、救急法等を実施しました。

## 加盟校の活動状況



加盟登録式

中学校4校、小学校1校にて加盟登録式を行いました。

\*登録式は、JRCメンバーに大切にしてほしいことについての話、ちかいの唱和、ワッペンの贈呈などを行います。



義援金募金活動

東日本大震災、平成30年7月豪雨災害をはじめ、各種災害に対し、今年度も多くの加盟校から義援金が寄せられました。ご協力いただきありがとうございました。



防災スクール

「防災スクール」を7回実施し、多くの子どもたちに災害への備えについて学んでいただきました。その他、サマーボランティアスクールやリーダー研修会においても、防災に関するグループワークなどを実施しました。

## Pick up!コーナー

各学校で行われているJRC活動を取り上げて紹介します。「うちの学校でもこんなことやっています!」「今年はこんな活動に力を入れます!」などの情報がありましたら、ぜひご連絡ください♪



### 奥出雲町立高尾小学校

高尾小学校は、全校児童が青少年赤十字活動として「寄席」に取り組んでいます。中でも、5・6年生の「青葉亭」の4名は、災害ボランティア学習として、熊本地震災害や赤十字の救護活動について学び、被災者を笑顔にするために「チャリティー寄席」を行っています。

楽しい落語を披露するだけでなく、寄席にあわせて義援金募金活動をしたり、熊本地震災害の被災者へ手紙を書いて届けたりしています。また、寄席の仲入りではお客様に向けて、青少年赤十字の精神や赤十字の創始者「アンリー・デュナン」の話を伝えています。



### 島根県立平田高等学校

平田高校JRC部は、青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」を合言葉に、地域にむけて体験型の防災イベントを自ら「主催」しています。東日本大震災をきっかけに、「高校生として何ができるだろう?」と考え、「私たちが防災について伝えていこう!」と、生徒たち自身が「起震車体験イベント」や「災害対応啓発イベント」を企画して実施しました。イベントでは、日赤から習った新聞紙スリッパやふろしきリュック、タオルケットガウンなどの防災に関する知識や技術を、多くの地域住民に広めています。

この取り組みは「全国ボランティアアワード2018」においても評価され、第3位を受賞しています。



### 松江清心養護学校

小学部4~6年生の児童たちは、「平成30年7月豪雨災害」の発生を機に、災害について学習した上で、募金活動を実施。手作り雑貨の販売をした売上金とあわせて義援金をご寄託いただきました。

また、いらなくなつた本やCDを集め、ブックオフを通して買い取り金額を日本赤十字社に寄付する「ボランティア宅本便」にも取り組まれました。本などを回収するために、手作りのチラシと回収箱を使って公民館やスーパーなどに出向いて直接呼びかけを行いました。その結果、本は約750冊、CDは約130枚集まり、ブックオフを通して日赤へご寄付いただきました。



# 島根県青少年赤十字指導者講習会を開催しました

「青少年赤十字指導者講習会」は、学校の先生方に、学校現場において青少年赤十字をどのように活用するのかを知っていただくことを目的に実施しています。今年度は2月13日（水）に開催し、赤十字や青少年赤十字の理念を改めて知っていただく機会となるよう、日本赤十字秋田看護大学より井上特任教授に講演をしていただきました。

\*特別講演：「青少年赤十字100年の願い～グローバル時代を生きる力～」

日本赤十字秋田看護大学 井上 忠男 特任教授

\*報告告：「青少年赤十字指導者研究会」 島根県教育庁教育指導課 伊藤 淳一 指導主事

\*事例発表：「合言葉『気づき・考え・実行する』で生きる力を身につけていく生徒たちの追跡調査」

島根県立平田高等学校 片岡 初美 教諭

\*事例発表：「ちっちゃな学校でのかい教育～地域とつながる高尾小にこにこ寄席～」

奥出雲町立高尾小学校 梶田勝造校長、川上宜久教諭、青葉亭児童4名

\*赤十字が提供できるプログラムについて 日本赤十字社島根県支部



JRCと学校教育のつながりについて、井上特任教授に分かりやすくご講演いただきました。



平田高校の事例発表では、生徒が作った「がれき」の上を歩く体験をしました。



高尾小の児童による寄席では会場が笑いに包まれました！

## 参加した先生方の感想

\*生徒の自主性を育てるために「待ちの姿勢の教育」が大切だと思った。

\*JRCを+αと捉えて、学校教育に取り入れるのは大変だという思いがあり、校内では動けずにいた。

JRCを新たな負担ではなく、反対に、負担を軽減するためのツールとして活用するという考えに触ることができてよかったです。

\*実践発表を聴き、「気づき・考え・実行する」の「気づき」の一歩、が大事だと感じた。

\*JRCについて理解を深めることができ、自校での取組のヒントを得た。

\*実践発表を聴き、子どもたちの自己肯定感、自信をつける活動につながるのだと感じた。

## 平成30年度 青少年赤十字加盟校

幼稚園・保育園	12園
小学校	85校
中学校	49校
高校	38校
特別支援学校	6校
合計	190校
(新規加盟校)	20校

## 令和元年度の主な行事

- 6月5日(水)：JRC指導者協議会総会〔サンラポーむらくも(松江市)〕
- 8月6日(火)～8日(木)：県トレセン〔サンレイク(出雲市)〕
- 9月29日(日)：赤十字救急法競技大会〔県立武道館(松江市)〕
- 12月7日(土)：隠岐トレセン〔隠岐の島町立西郷中学校〕
- 2月1日(土)：益田トレセン〔益田市立吉田小学校〕
- 2月13日(水)：JRC指導者講習会〔サンラポーむらくも(松江市)〕



日本赤十字社 島根県支部 青少年赤十字事務局

〒690-0873 松江市内中原町40 TEL:0852-21-4237